

盲というハンディをものともせず障害を乗り越えその技をみがき、全国の小中学校をはじめ福祉施設や海外などで、演奏講演会を行い聞く人に多くの感動と励ましを与え続けている。

この日大島さんは2時からの開演に備えて会場には10時頃には着いて準備をされるという周到さ。会場には当クラブが手配したバスに乗って子供達がゾクゾクと到着。引率の教諭のほか一般の入場も受け付け会場は満員だった。二人の児童に手を引かれてステージに上がった大島さんは、最初「ツァラトゥストはかく語りき」「星に願いを」「翼をください」をメドレーで演奏し、その見事な身のこなしに会場の目と耳を引き付けた。あいさつの後思い出話。「6歳の誕生日の朝のこと、母が『きょうは本当に空が真っ青。山の紅葉がきれい』と言った。でも、私はそれが何のことかわからない。母に『空が青い、山がきれいって何?』と聞いたら、母は私の体を抱いて泣き始めました。その時まで自分が目が見えないということは知らされていなかったのです。音楽を始めたきっかけは、オルガンでした。祖父が使っていた足踏みオルガンが家にありました。それに家の隣がちょうど小学校の音楽室だったのは運がよかったと思います。オルガンが弾けたらいいと思っていたら、不思議なことに夢の中に祖父が現れて一曲だけオルガンを教えてくれました。翌朝、すぐに母に聴かせてあげました。「赤い靴」が弾けるようになったら友達がいっぱいできました」。それから大島さんは友達と一緒に遊ぶようになるが、隠れんぼをしてもなぜかいつも鬼にならない。それは、母が友達に頼んでじゃんけんを負けてもらっていたとのこと。その後大島さんは隣の学校の音楽の先生になりたいと思うようになり、盲学校に進学し音楽の勉強も続けたが、障害の為に先生にはなれずピアノを辞めることも考えた。ちょうどその頃老人ホームで演奏をする機会に恵まれ、何曲も弾いているうちどこからともなく歌声が聞こえてきた。それまで話しかけても口も利かなければ、食事もとらないようなお年寄りが、半身を起こして歌を歌っているというのです。それをきいてピアノをやめる必要はないお年寄りに音楽を聴いてもらおうとこの仕事が始まった。それから10年、大島さんの活動は海外にも伝わり、ブラジルで日系人の為のチャリティーコンサートまで開くことができるようになった。そのコンサートに出かける3日前、新宿駅で電子オルガン連続50時間演奏に挑戦するというイベントが行われているのに出会った。もう2時間というところでその人は力つきて演奏は止まってしまった。そのまま続けると目から出血するとのこと。その時、大島さんは私は目が見えないので私ならできると思い、100時間連続演奏にチャレンジ。そして見事にそれを達成し世界のギネスブックに記され今でもその記録はやぶられていない。「お陰で隣の子供だけでなく。全国の子供達とこうして会うことができるようになりました。皆さんも大きな目標を掲げて挑戦してみてください。皆さんも向井千秋さんになれるんです」と児童を励ました。このあと再び演奏、タイタニックのテーマ曲、大島さんの作曲した津軽三味線をイメージした「津軽夢吹雪」は圧巻であった。後で何人かの子供達に一番印象に残った曲はと聞いたら「津軽三味線」と答えてくれた。「となりのトトロ」「さんぽ」坂本九の「上を向いて歩こう」と続き最後に岡本真夜の「トゥモロー」を全員で歌って1時間半の公演を終わった。

子供達は大島さんが目が見えないのにもかかわらず、全てを暗符し2つの電子オルガンをまさに目が見えるがごとく自由自在に操り神業のような技法で奏でられる音色が文字通り「心に響く音がある」と言うにふさわしい演奏と講演をされたことに大きな感動をおぼえていた。終了時には会場から割れるような拍手がおこり退場のときにも鳴り止まなかった。

先生、子供達の感想

大島さんの演奏を聞いて目が見えないのによくあんなに早く正確にひけるか不思議に思いました。1000曲以上も見ないでおぼえるんですか？ 聞いている途中すごく大きい音がでているのになむくなりました。

大島さんの話もありました。他の子供とはちがうからすごく苦労したと思ひます。目が見えないことがすごく大変だということがわかりました。色が見えない。赤青などの色も見えないなんてすごく悲しいと思ひます。

これからがんばって下さい。

大島さんの音楽を聞いて、すごく感動しました。お目めが見えないのにスバラシ〜音楽をひけて、スゴいなーと思ひました。日本だけでなく、いろいろな国へ行けて、いろんな人に聞かせているなんてうらやましーなーと言うかスゴいなーと思ひました。

私も大島さんのように、いろいろなことへ、チャレンジしてみたいとおもひました。これから、たくさんの人に、大島さんの音楽を聞いてほしいなーと思ひました。スバラシイおんがくをありがとうございました。

私は大島さんの演奏を聞いて、目が見えないのに両手でけんばんをひいたり、足を動かしたりしてとってもすごいな〜と思ひました。私達もしっている『さんぽ』などもひいてくれてありがとうございました。

大島さんの話を聞いていると『私も中学に行けてがんばろう。』という気持ちがもてました。

アリガトウゴザイマシタ。

大島彰さんのコンサートは、とってもよかったです。百時間も続けてひいたのには、すごいな〜と思ひたし、びっくりもしました。彰さんは目が見えなくても、エレクトーンでがんばっているんだな。すごいな。と思ひました。私の家にもおばあちゃんがいて、今はもう私が小さいころになくなってしまったけど、おばあちゃんは首から下は動かなくなって、何も感じないじょうたいになてしまったそうで、それでも口で絵を書いていたとおじいちゃんから聞かされました。何ヶ月もかかってやっと一枚の絵が出るんだそうです。その口で書いた絵を見せてもらってびっくりしました。とっても上手に書けていました。体が動かなくても、彰さんのように私のおばあちゃんもがん